

AMDA研修始まる

JICA 医療NGOを招き

発展途上国の医療NGO（民間活動団体）からスタッフを迎え、アジア医師連絡協議会（AMDA）で、

組織運営のノウハウを学んでもらう国際協力事業団（JICA）の研修が十八日、岡山市榴津のAMDA本部で始まった。JICAが日本の医療NGOと協力して行う研修は、全国で唯

一。五年計画で開始から三年目になるが、途上国のNGOを育てるプログラムが注目されている。

同じNGOから継続して違ふスタッフを招待、研修の成果を組織として生かせるように配慮している。

インド、タイ、ブータン、ニカラグアなど十四か国から三十、四十歳代の十四

人が参加。いずれも、自国の医療NGOのスタッフで、スタッフのトレーニングなどを担当しており、期間は十八日―十月二十七日。

東大や岡山大医学部の研究者らを招き、医療スタッフに対してどのような研修が必要かなどについての講

義を受けるほか、県内の病院、専門学校を訪問、母语言学級や障害者の指導方法などについても学ぶ。十月十三日からの「第七回おかもま国際貢献NGOサミット」への参加も予定している。

初日は菅波茂・AMDA代表理事が同本部で講演。

組織の理念である「相互扶助」などについて熱弁を振るい、研修員らは熱心にメモをとるなどして聴き入っていた。ボリビアで医療NGOの技術研修を担

当しているホセ・イグナシオ・カレノさん(49)は「AMDAの理念を、ぜひ自国のプロジェクトにも反映させたい」と話していた。